

ODA

ピアネット・イルカ

つうかん
ODA通巻：1446



発行 社会福祉法人
 沖縄県身体障害者福祉協会
 編集人 NPO 法人沖縄県自立生活センター・イルカ
 住所 〒901-2221 沖縄県宜野湾市伊佐4-4-1(1F)
 単価 100円(会費に含)
 TEL 098-890-4890
 FAX 098-897-1877

もくじ

2 ページ～3 ページ半……………^{じっしゅう とお まな} 実習を通して学んだこと

3 ページ半～4 ページ……………イルカ総会^{そうかい}

じっしゅう とお まな 実習を通して学んだこと

わたし がつ にち がつ にち にちかん たくさん まな
私は3月4日から3月25日までの15日間、イルカで沢山のことを学ばせていただきました。とて
みつど こ たの じかん こんかい じっしゅう きかん とお わたし かん まな
も密度が濃くて楽しい時間でした。今回はこの実習期間を通して私が感じたことや学んだこと
みな ほうこく おも
を皆さんに報告したいと思います。

わたし じりつせいかつ ビーエーアイ じっしゅう きぼう りゆう しょう しゃ ちいき
私が自立生活センター・イルカとPAIおきなわに実習を希望した理由は、障がい者の地域で
じりつせいかつ しえん ひつよう しょう しゃ じりつ きょうみ
の自立生活とはなんだろうか、どのような支援が必要なのかなど、「障がい者の自立」に興味
あったからです。そしてわたし いま しょう しゃ かた かか きかい しょう しゃ かた
としましては今まで障がい者の方と関わる機会がほとんどなく、「障がい者の方
はな 話してみたい」という気持ちもありました。

わたし じっしゅう い まえ おお かか もくひょう しょう とくせい あいて じょうきょう あ
私は実習に行く前に大きく掲げた目標があります。それは、「障がい特性や相手の状況に合わ
せたコミュニケーション技術を学ぶ」というものです。どうやったら相手の意志をくみ取ること
でき あいて ふかい いろいろ ふあん かか
が出来るか、相手を不快にさせないためにはどうやったらいいかなど、色々な不安を抱えていま
した。そして二日目から当事者インタビューをすることになった時、私はとても緊張していま
した。わたし たんとう かた しょう かた き ほんにん
た。私は担当の方に「どのような障がいがある方ですか？」と聞いても、「本人にきいてみて」
というので、始めは「障がい者の方に障がいってことばを面と向かって言っているの・・・？」と
ふあん あたま なか じっしゅう とお かんが わたし こころ
いう不安がずっと頭の中にもありました。しかし実習を通してこの考えは、私の心のバリアがあ
ったということに気が付きました。

いま ねん まえ かいじょ ほしょうせい ど しょう しゃ ひっし しゃかい うた すこ しゃかい
今から50年ほど前は介助保障制度がなくて、障がい者が必死に社会に訴え、少しずつ社会が
かわっていったという歴史を知り、とても驚きました。始めは障がい者運動は少し過激だったん
だという印象を受けましたが、それほど力強く社会に訴えなければ社会は真剣に考えてくれず、
もしかしたら今の社会も差別や障壁ばかりだったかもしれないと思うと、行動することの大切
さ、そしてそれに真剣に向き合い一緒に考えていくことの大切さを学びました。

しえん じぎょう そうだん しえん じぎょう おし しゃかい ぎ さん か じっさい
また支援事業では、相談支援事業について教えていただいたり、4者会議に参加して実際のケ
ースの話し合いの様子を観察したりさせていただきました。実際に話を聞いたり現場をみるこ
とで、だいがく こうぎ まな じぶん かんかく まな でき じぶん まな
大学の講義で学ぶよりも自分の感覚として学ぶことが出来たし、「それについて自分で学
んでみよう」という興味に繋がりました。そうだん しえんせんもんいん こま たい
相談支援専門員は、困っていることに対しサービスを
ほんにん ほんとう なに ちいき なに しげん
つなげるだけではなく、本人の本当にやりたいことは何か、地域では何ができるのか、その資源
げんざい かいたく ひとり ひと ていねい しんけん む あ
が現在ないならどうやって開拓していくかなど、一人の人に丁寧に真剣に向き合っていること
わ せいど じぎょう かん ちしき べんきょう なか み おも ひと
が分かりました。制度や事業に関する知識は勉強する中で身についていくと思いますが、「人を

たいせつ ちいき たいせつ かんが きも ちよくせつ じぶん め み ころ かん
 大切にする、地域を大切にする」という考えや気持ちは直接自分の目で見て心で感じなければ
 え で き おも
 得ることが出来なかったと思います。

そしてこの実習を通して一番自分の中で変化したのが、障がいに対する考え方です。生活介
 護の皆さんと一緒に過ごさせていただく中で、実習当初に考えていた、「障がい者の方とのコミ
 ュニケーション技術」というものは誰かに教えてもらったり、教科書で学ぶものではないことが
 わかりました。始めはどういう声掛けが必要で、どのような喋り方が必要なのか、などコミュニ
 ケーションに正解があると思っていたのですが、一人一人と直接お話してみると、「この人は何
 の障がいがあるから・・・」などではなく、その人と向き合うことが大切だとわかりました。表情
 をみる、ジェスチャーをみる、長い時間をかけて信頼関係を形成する、というのは「障がい者の
 方とのコミュニケーション」ではなく、障がいがあるなし関係なく人としてのコミュニケーショ
 ン方法です。しかし実際に関わってみないと、「分からない」ことが多いので、障がいがある方
 が地域で生活することは、社会にとっても大切で必要だということがわかりました。

今回の実習を通して沢山のことを学びました。言葉で表現しきれないけれど、心で学ぶことも
 たくさんありました。そして、分からないから勉強してみようと思うこともたくさんありました。
 障がい者運動の歴史、福祉サービスや制度、医療的ケアやインクルーシブ教育、障がい特性など、
 この15日間だけで完全に理解することはできませんでした。だからこそ分からないから知りたい
 ！という気持ちを大切にしてこれからも勉強していきたいと思います。本当にありがとうござ
 いました。

そうかい イルカ総会

6月17日に令和3年度イルカ総会が行われました。今年は、少し感染状況が落ち着いたので対
 面とオンラインで行いました。

コロナ禍の中、色々工夫をしながら行なった活動報告をしました。

総会が終わった後は、皆で美味しい食べ物を頂きました。

来年こそは、皆そろって対面総会ができるようになったらいいなあと思いました。



Zoom



Zoom
みやこ いしがき
宮古 石垣
なご なは
名護 那覇

しんぼくかい ようす
親睦会の様子



た 食べるものは、沢山あるけどやっぱり
もの たくさん
おおぜい 食べた方が美味しいし、楽しいさーw
たの

